

押上北口 駅まえデザインワークショップ

令和5年12月
墨田区

はじめに

現在、東武スカイツリーラインとうきょうスカイツリー駅付近の約0.9kmの区間について鉄道の高架化工事を行っており、桜橋通りにある踏切の除却などにより、これまで鉄道によって分断されていた駅南北市街地の地上レベルでの行き来が容易になります。
こうした中、高架化工事に伴い、とうきょうスカイツリー駅東側改札が設置されるとともに、高架北側に新たな交通広場が整備される予定となっています。今後整備予定の北口交通広場がある駅まえを題材としてワークショップを実施しました。

ワークショップの募集概要

期 間	令和5年7月11日（火）～7月31日（月）
条 件	全3回のワークショップに参加できること
受付方法	電子申請システムによる受付
定 員	30名（応募があった全32名を参加者としました）

1 | ワークショップの目的と経緯

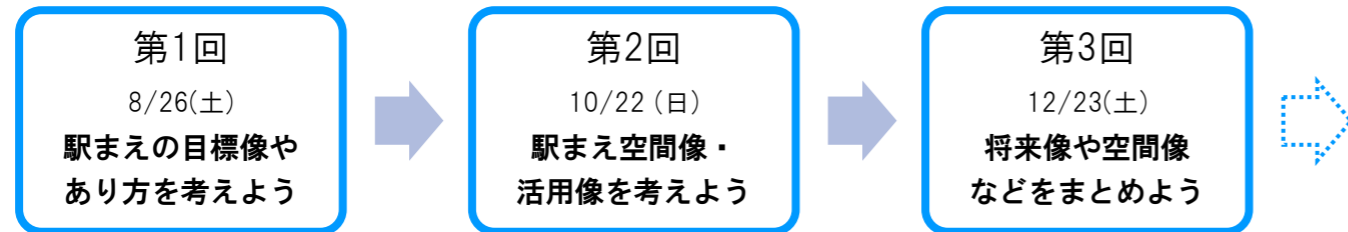
趣旨

「押上北口駅まえ」の空間像や活用について考えていきます

押上の高架北側に今後整備が予定されている交通広場周辺の“駅まえ”空間イメージについて、利用者目線で考えるワークショップ（全3回）を開催しました。

「駅まえ」とは、交通広場や道路などの公共空間だけでなく高架下や線路沿いの敷地も含めた目に見える範囲の事を指します。

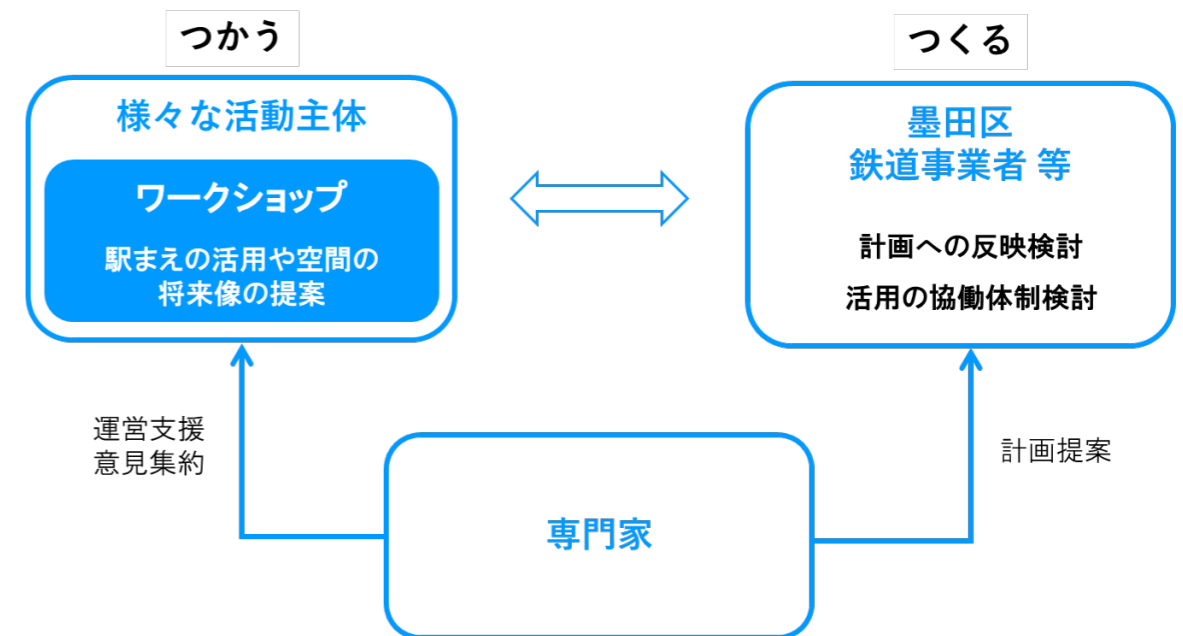
「どんな人が」、「いつ」、「どこを」利用するのか・どんな空間が良いのか・どう活用したいのかなどについて、参加者間で考えました。



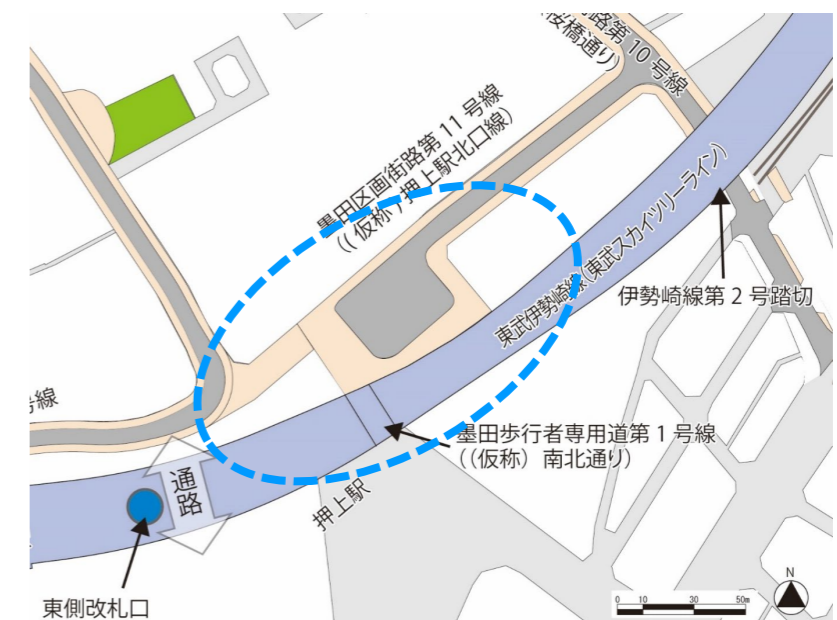
2 | ワークショップの位置づけ

道路や高架下等で構成する“駅まえ”は、その場所を「つかう」様々な活動主体の意見を聞きながら「つくる」ことで、利用者から愛される場所となります。

「つかう」と「つくる」の両輪構造



3 | ワークショップの対象



押上北口 駅まえデザインワークショップ

まとめ

今後整備予定の北口交通広場がある“駅まえ”を題材としたワークショップのまとめであり、参加者からの自由な意見に基づくものです。今後は、これらの意見を参考としながら押上北口の“駅まえ”におけるまちづくりや、駅前広場等の検討が進められていきます。

目次

- 1 いまの押上北口について、これからの駅まえについて
- 2 駅まえデザインの視点
- 3 駅まえデザインのコンセプト
- 4 駅まえ空間のデザインイメージ
- 5 駅まえ空間の実現に向けた空間のつくり方
- 6 駅まえ空間の活用アイデア

資料編

1 いまの押上北口について、これからの駅まえについて

いまの押上北口についてを聞いたところ、大事にしていきたいところや課題などが見えてきました。主な意見を紹介します。
また将来の“駅まえ”での望ましいアクティビティ（活動）については、日常的な風景に関する意見が多く出され、地域との繋がりを強く意識する意見が多く出されました。

大事にしていきたいところ

●地域コミュニティのつながりが強い

- ・ 人と人のつながりが強く、古き良き昔ながらの押上が残っている。
- ・ 子どもから高齢の方まで幅広い住民がいることが魅力。

●静かな住環境

- ・ 鉄道北側は静かな住宅地なので、これからも住宅地としての環境を残していきたい。
- ・ 静かな環境ながら、日中は親子が公園で遊んでいたりする光景がみられるのが良い。

●東京スカイツリーへの眺望

- ・ 東京スカイツリーの夜景はきれい。
- ・ 東武鉄道本社前の道路から東京スカイツリーが真正面に見える。

課題

●居住者・来訪者層に変化がみられる

- ・ 最近ワンルームマンションや観光客向け宿が増えた。

●みどり・広場が少ない/子育て環境が不足している

- ・ みどりのある公園が遠く、駅付近に広場や緑が少ない。
- ・ 木陰や休憩できる場所がない。

●特徴がない

- ・ 待合せの目印になる場所がない。
- ・ 東京スカイツリーの裏側のように感じてしまう。

●歴史を感じる場所がない

- ・ 過去の歴史の記憶が残っていない。
- ・ 神社はあるが、日常的にお参りしたり観たりできない。

望ましい駅まえのアクティビティ

< 日常の風景 >

●地域の人が利用する風景

- ・ 大人や子ども、ママ友、高齢者、ビジネスマンなど、地域で生活する人たちが木陰のベンチで休んでいたりと、遊んでいたりと、ランチをしていたりと、平日の昼間に日常的に利用する風景があると良い。
- ・ 休日は、地域の住民が芝生等でゆっくりしていたり子どもが遊んでいたりと、下町らしさを感じられる駅まえが良い。



< 非日常の風景 >

●地域イベントを行う場としての“駅まえ”

- ・ 盆踊りなどの大きな催しものは年数回程度、開催できると良い。
- ・ 平日や休日には、マルシェやマーケット、ライブ・ジャズイベントなど、小さなイベントを気軽に開催できると良い。



●地域の人や店舗が出店するイベント

- ・ 地域の店舗が出店する屋台やキッチンカーが出ていて、にぎわいのある風景があると良い。



2 駅まえデザインの視点

現在の街の現状認識を踏まえ、魅力ある“駅まえ”づくりを実現していくために意識すべき視点を以下の4つに整理します。

いずれの視点も、望ましいアクティビティが生まれる“駅まえ”空間を実現するために必要なもので、これらの視点に基づいてコンセプト・空間のつくり方を設定していきます。

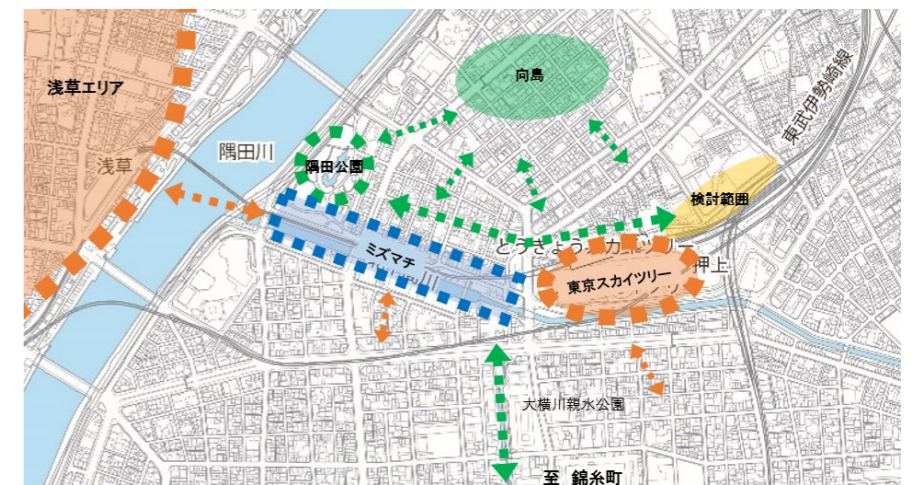
1 | 駅周辺の住環境を尊重する

鉄道北側は、静かな住宅地が広がる生活エリアになっています。これらの住環境と調和するような、新たな“駅まえ”の顔づくりが望ましい。



3 | 周辺とのつながりと違いを明確にする

押上北口は隅田公園やミズマチとの水と緑のネットワークや、向島との歩行者ネットワークの中にあります。“駅まえ”は、日々の生活環境に則した整備・活用の方針としていくことで、東京スカイツリー側とは異なる場づくりを進めていきたい。



2 | 人のための広場・日常の風景を大切にする

“駅まえ”が人のための場となるように、駅や公共交通機関の利用のためだけでなく、地域の人たちが日常的に利用する風景づくりを大切にしていきたい。



4 | 駅まえ空間を一体的・連続的に捉える

駅前広場や道路などの公共空間だけでなく、高架下や線路沿いの敷地も含めた一体の空間を“駅まえ”と捉え、誰もが過ごしやすい豊かで心地よい空間づくりが望ましい。



3 駅まえデザインのコンセプト

押上北口の魅力ある顔づくりに向けて、これから新たに生み出される“駅まえ”空間のコンセプトとして、以下の3つの方針を柱とします。

地域で育み、地域に愛される すみだの顔となる“駅まえ”



みどり豊かで、やすらぎのある駅まえ

自然を身近に感じ、木陰で休めるなど、居心地がよく、季節の移ろいを感じる緑豊かな空間づくりが望ましい。
多様な過ごし方ができる場としていくことで、やすらぎのある風景を生み出します。



<ワークショップで出されたアイデア>

- うるおいがある居心地よい空間（視線の抜け・緑陰・芝生・噴水）
- 四季を感じる緑
- 気軽に緑に触れ合える設え（花壇など）
- 自然に触れる（どろんこ遊び、水遊びなど）
- ゆっくりできるベンチ・芝生
- 量を敷いた和の高架下空間でくつろぐ
- 隅田公園・ミズマチからのグリーンロード
- ヒューマンスケールなまち
- 騒音やゴミの対策は必須



人が憩い、交流する駅まえ

車や人が通行するだけの“駅まえ”ではなく、子どもや高齢者など多世代が安心して憩うことができ、高架下や店舗等と連続した“駅まえ”空間の形成が望ましい。
地域の人や店が出店するイベントの実施など、地域に寄り添い、地域で運営する“駅まえ”活用の仕組みを模索していきます。



<ワークショップで出されたアイデア>

- 子どもの遊び環境（広場、高架下）
- 親の見守りスペース
- ちょっと時間を過ごせる高架下
- キッチンカーでランチを買って食べられる場
- 店舗・施設からのにじみだし
- 地域の店や人が出るイベント・墨田区ならではの（ヨガ・フリーマーケット・高架下マルシェ）
- 静かで華のあるイベント（ジャズ演奏・シャボン玉・休日朝市・合唱）
- たまに大きなイベント（盆踊り・アウトドア体験など）
- イベント規模に合わせて活用サイズを変更
- 赤ちょうちんなど、大人が集える場
- 防災訓練（防災ベンチ、かまどベンチ等の活用）



中心性・シンボル性のある駅まえ

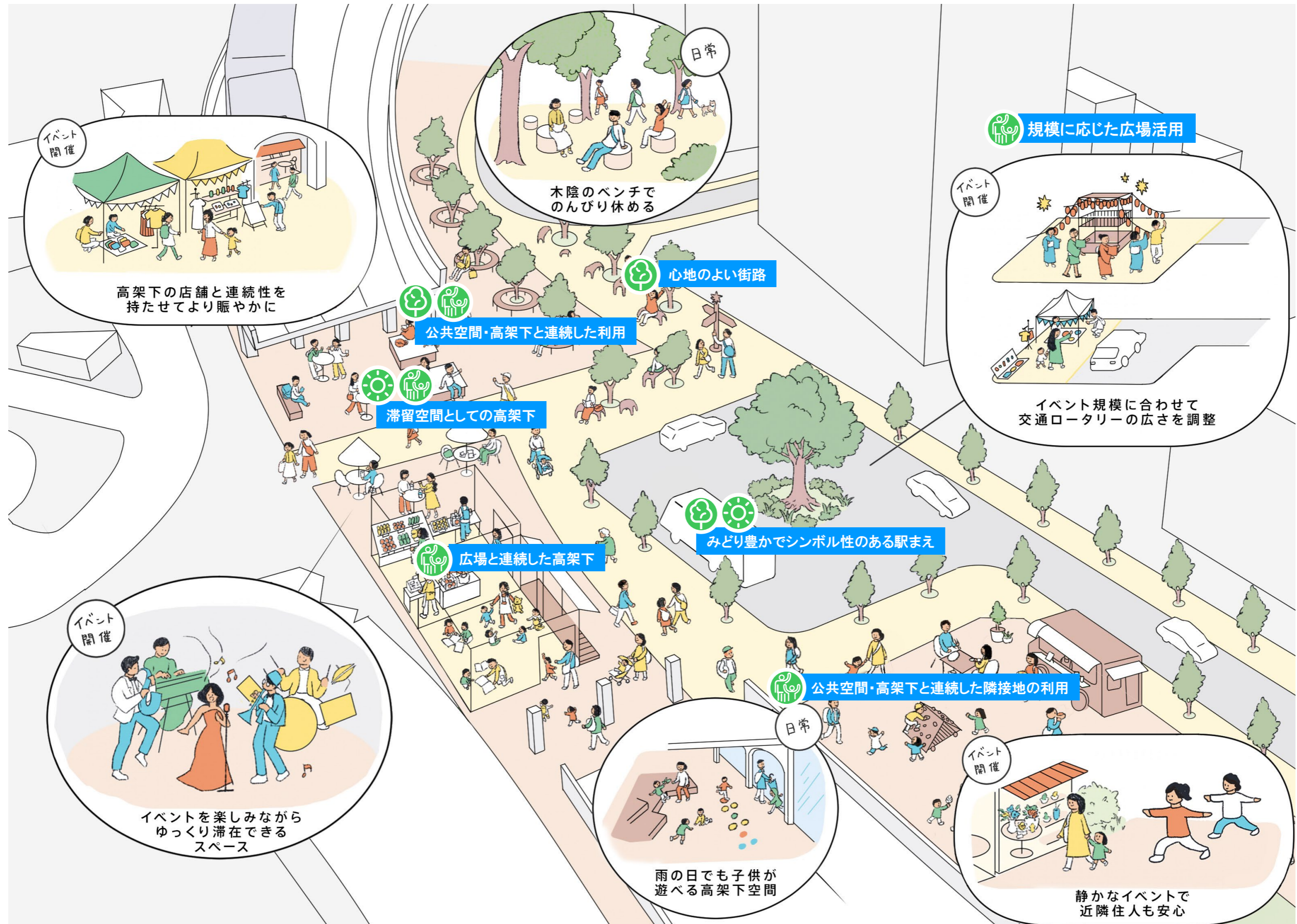
すみだの玄関口として、下町らしさや親しみやすさのある顔づくりが望ましい。
空間としての中心性だけでなく、区民活動や情報交換の場、すみだの特色である伝統産業を巻き込んだにぎわいづくりなど、活動の連鎖を生み出す交流の拠点に育てていくことを目指します。



<ワークショップで出されたアイデア>

- シンボルツリー
- 待ち合わせ場所となるシンボル性のあるもの
- シンボリックな築山（防災倉庫）
- 地域活動等の情報発信
- 墨田区の伝統産業に関連するイベント（職人が作った工芸品の展示、販売）
- 地域の案内所
- 移動拠点（シェアサイクル、コミュニティバス）
- 子ども・障がい者が移動しやすいインクルーシブな空間
- スカイツリーの撮影スポット
- 駅前広場側に顔を向けた高架下施設（保育園、コミュニティカフェなど）
- まちの案内サイン

4 駅まえ空間のデザインイメージ

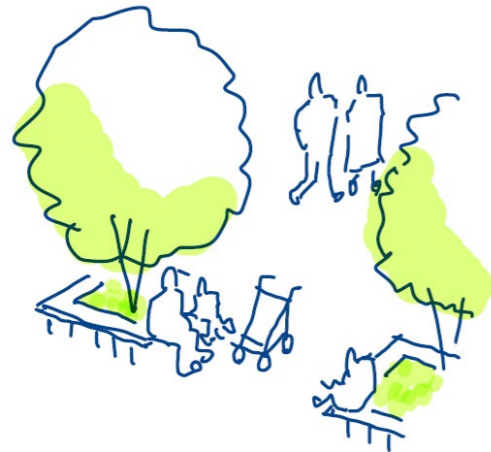


5 駅まえ空間の実現化に向けた空間のつくり方

地域で育み、地域に愛されるすみだの顔となる“駅まえ”を実現するための空間のつくり方を整理しました。

心地のよい街路・駅まえ

木陰でちょっとした休息やランチを食べたりできるベンチがあるなど、過ごしやすい設えのある公共空間とする



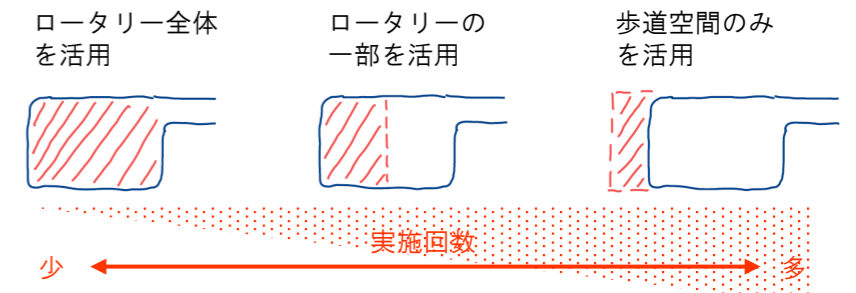
みどり豊かでシンボル性のある駅まえ

シンボル性のある樹木や築山、地域性を感じる滞留スペースなど、待合せ場所やみんなの目印になるような中心性のある“駅まえ”にする



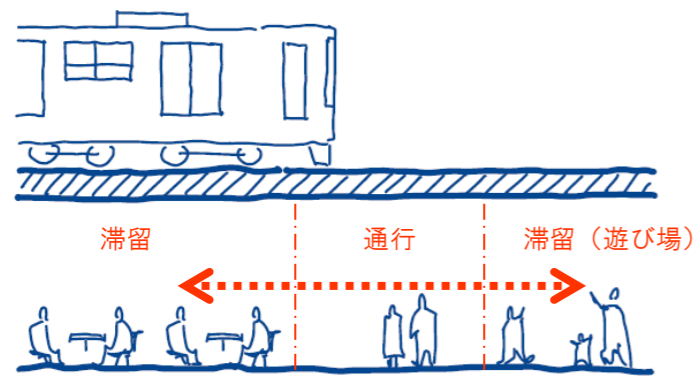
規模に応じた広場活用

大きなイベントでは交通ロータリー全体を活用、小さなイベントは半分くらいを活用、気軽なイベントは歩道を活用するなど、規模に応じて駅前広場を活用できるようにする



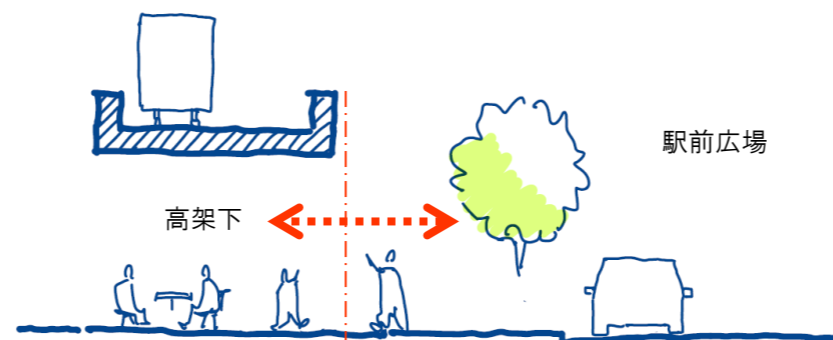
滞留空間として的高架下

ただ通行するだけではなく、ちょっとした休息や活動の場となるような設えがあり、高架下空間が南北貫通動線と連続して利用できるようにする



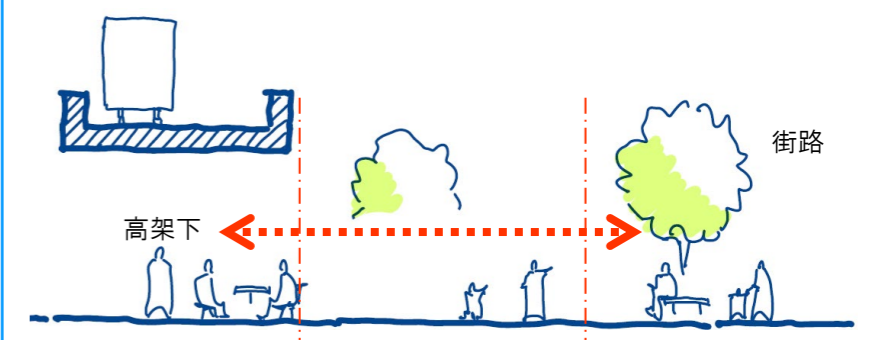
駅前広場と連続した高架下

駅前広場に顔を向けて、屋外空間と連続した利用ができるような高架下空間の設えにする



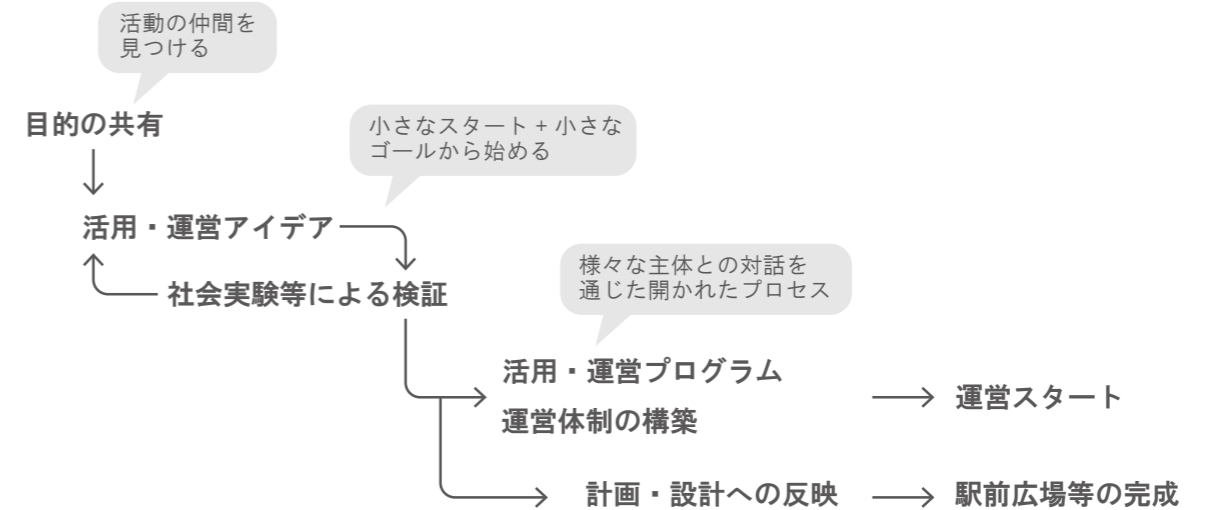
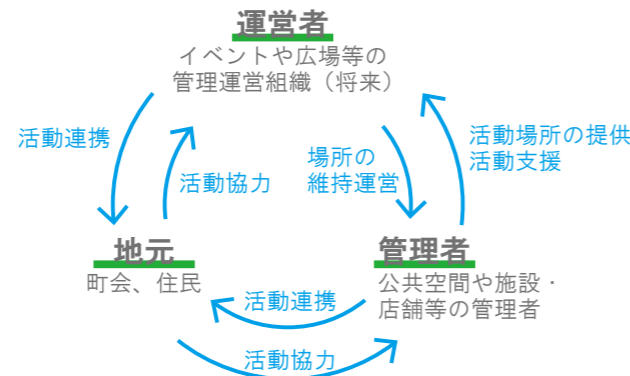
公共空間・高架下と連続した隣接地の利用

“駅まえ”空間に隣接する場所は、街路・駅前広場や高架下と空間的にも機能的にも連続して利用できるように境界の設えにする



6 駅まえ空間の活用アイデア

ワークショップで出た“駅まえ”空間の活用アイデアは、様々な関係者が連携する仕組みがあって初めて実現することができます。
その仕組みは、最初は小さなスタートと小さなゴールを設定した社会実験等から始めて、検証を積み重ねていくことで、地域にふさわしい形を見つけていく必要があります。
また、“駅まえ”空間の活用において中心的な役割を担うことになる地元と運営者が、開かれたプロセスの中で様々な主体と対話し、信頼関係を築くことによって、円滑な運営を実現する近道となります。



日常の活用アイデア

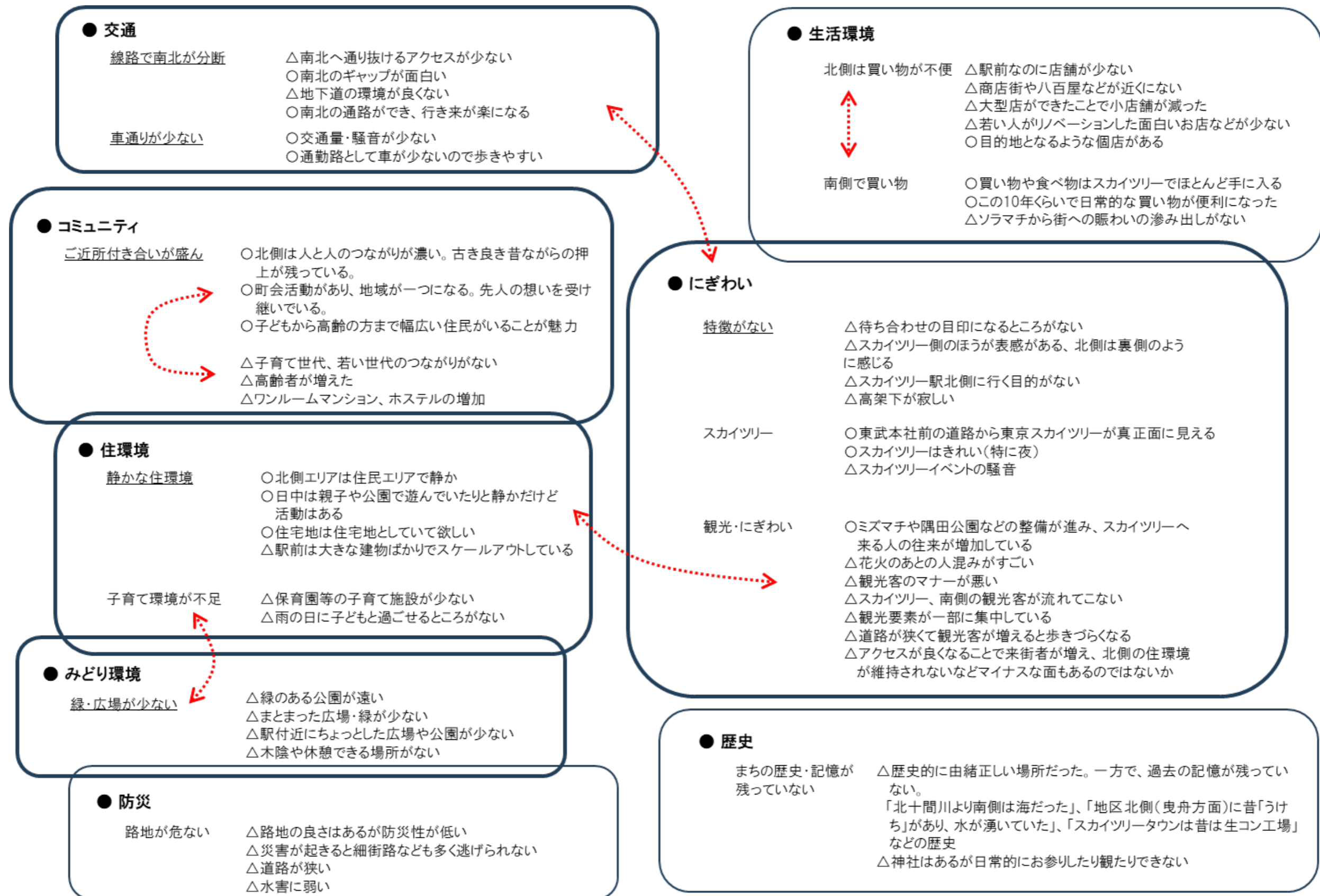
アイデア	支える仕組み・主体	
可動式のイスやテーブルのあるオープンスペース	運	イス・テーブルを管理する組織
	管	設置場所の提供
小規模な直売マルシェ	運	イベントの企画・運営、出店者の募集
	管	場所の提供
市民活動等の情報発信の場、地域の案内所	運	案内所の管理・運営、案内人の募集
	地	掲載する情報の提供、運営の協力
	管	場所の提供
キッチンカーでランチを買って食べる	運	テーブル席の管理、キッチンカーの手配
	管	場所の提供
こどもの野外活動（花植え、野菜・果実の収穫） 芝生や植栽等の管理	運	こまめな水やりやお手入れ等の維持管理
	地	植栽管理の協力
	管	通常の植栽管理
店舗・施設からの参みだし（ベンチ・テーブル）	管	店舗・施設を運営する人
時間帯で車が入れないよう規制し、子供が平日の昼間に安全に遊ぶ	運	車両交通規制等の申請
	管	車両交通規制等の許可
	地	見守りをする地域の人

運：活動の運営組織 / 管：公共空間や施設・店舗等の管理者 / 地：地元の町会、住民

非日常の活用アイデア

アイデア	支える仕組み・主体	
地元の人がフリーマーケットやヨガ	運・地	イベントの企画・運営
	地元	出店者やヨガの先生の募集
	管	場所の提供
地域の人による休日のみの朝市	運	朝市の企画・運営
	地	出店者の募集
	管	場所の提供
年1~2回の町会合同のお祭り （ロータリーの活用）	地	お祭りの企画・運営
	地	出店者の募集
	地・運	車両交通規制等の申請
	管	車両交通規制等の許可
墨田区ならではの地域性が出たイベント （ロータリーの活用）	運	イベントの管理・運営
	地	出店者の募集
	地・運	車両交通規制等の申請
	管	車両交通規制等の許可
防災訓練（かまどベンチ・マンホールトイレ等の活用）	地・運	防災訓練の企画・運営
	管	場所の提供

第1回ワークショップ | グループワーク1 「いまの押上北口を語ろう」



第1回ワークショップ | グループワーク2「将来の“駅まえ”の風景を想像しよう」

○ : 意見の多かったもの
 ←.....→ : 関係しているキーワード



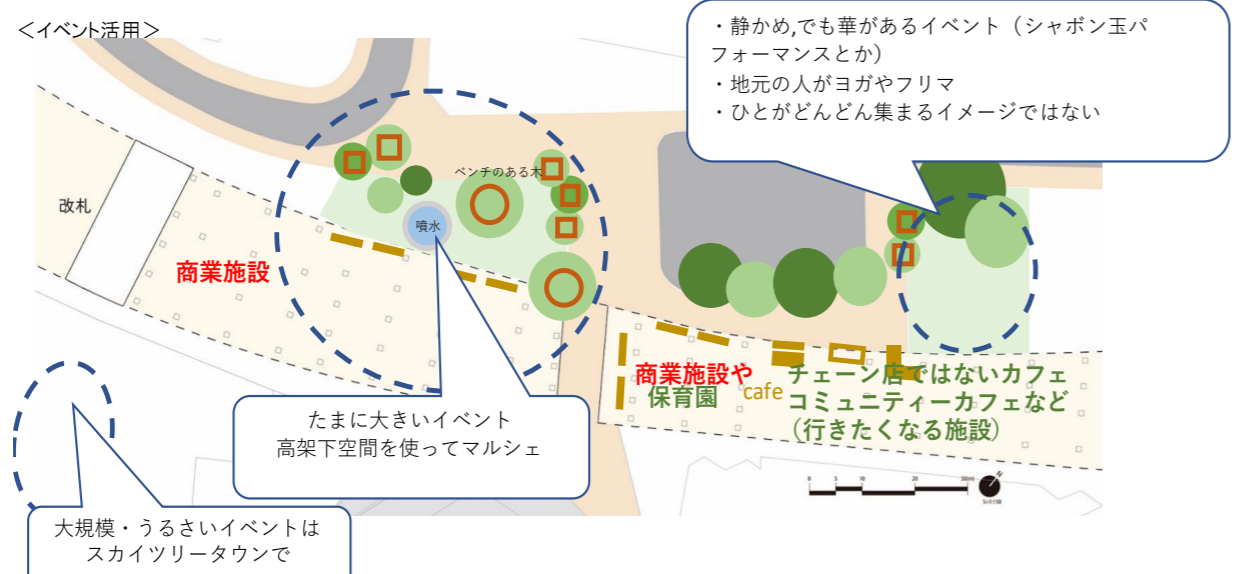
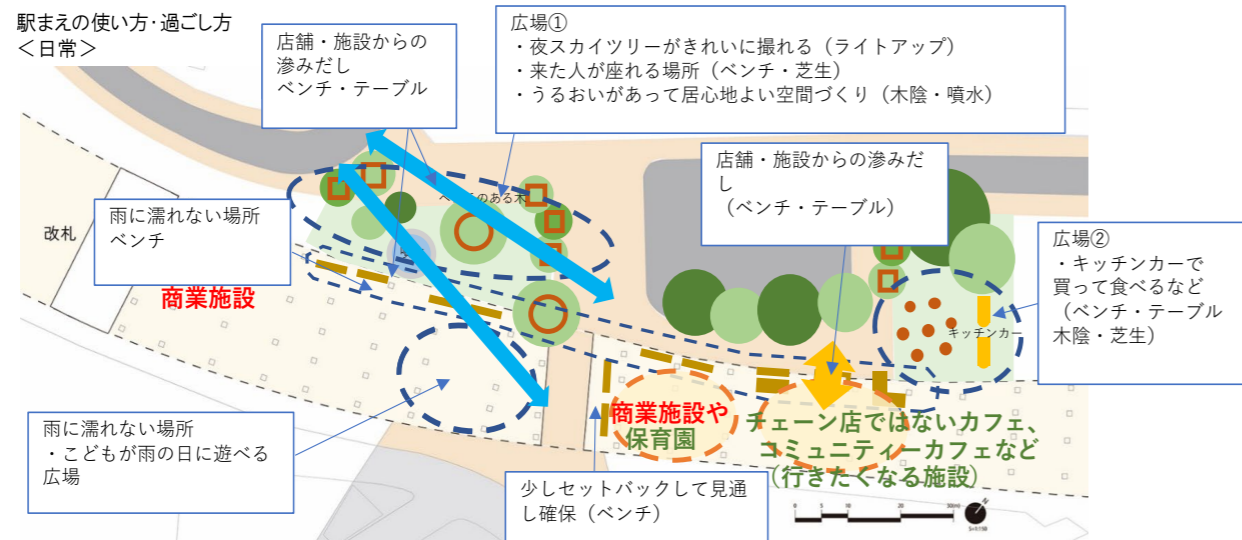
第2回ワークショップ | グループワーク「“駅まえ”の使い方、広場のコンセプトを考えよう」

グループ

1

広場名: キーワード: たまれる、うるおい、過ごしやすい広場(スカイツリータウンとは違う場所)

	平日の風景	イベント時の風景
誰が?	子ども、地元の人、高齢の人	地元中心の人たち
何をしている?	ふんすい、緑と木陰で過ごしている	イベント
両風景にある要素	※うるおいや過ごしやすさを阻害する要因 「鉄道の音」「外からの人」「雨」「暑い日ざし」・・・ こうしたものから守られる場所	



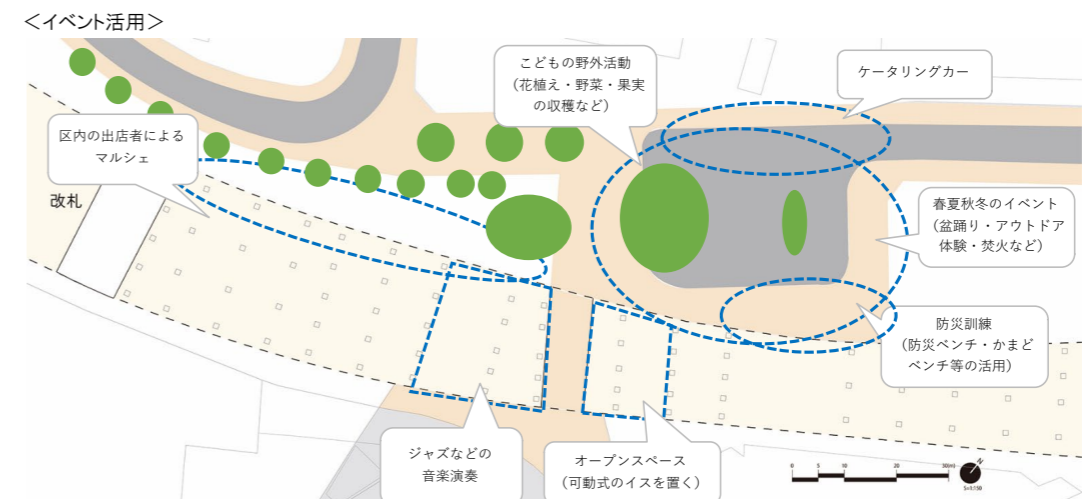
その他意見: スカイツリータウンとは違う役割

グループ

2

広場名: 四季を楽しむヤママチ広場

	平日の風景	イベント時の風景
誰が?	色んな人	子どもなど多様な人々
いつ?	いつも	春夏秋冬
何をしている?	緑豊かなベンチや広場空間で日常を過ごす	四季を楽しめるイベントに参加している



その他意見: 季節感のある広場にしたい
自然に触れる(どろんこ遊び、水遊び、雪遊びなど)ことができる広場にしたい
隅田公園とミズマチからのグリーンロードをつなげていく、ソラマチとは異なるグリーンシティとする
道路と広場は段差等がなく、多様な活用ができるようにしておく
ヒューマンスケールなまちにする
地域住民に受け入れてもらうためには、騒音やごみの対策はきちんと考えておく必要がある

第2回ワークショップ | グループワーク「“駅まえ”の使い方、広場のコンセプトを考えよう」

グループ

3

名: みどりの中之郷(※広場ではないという意見だったため広場という文言削除)

	平日の風景	イベント時の風景
誰が?	①タクシーが常に止まっていない(止めない)	車は入ってこない
いつ?	②まちのひとが疲れた時に木陰で休む	・休日に地域のひとによる朝市
何をしています?	③(東武の敷地も含めて広く使えるならば)地域のひとがオープンテラスで憩う ④(東武の敷地も含めて広く使えるならば)車両を展示し交通公園で子供が乗ったり座ったりして遊ぶ	・休日に職人・工芸・展示・販売 ・大道芸、落語(駅の改札口寄り)で行う ・(祭りの)おみこし ※コンサートはNG、地域活性化になるイベント

駅まへの使い方・過ごし方
<日常>



<イベント活用>



その他意見:

- ・ロータリーは誰が使うのか、そもそも誰のためのものか?(今でも車はほとんど通っていないのに)
- ・地域で運用のルールを決めるのが良い(時間や曜日で車両を通行止めにして人のための広場にするなど)
- ・不特定多数の人(観光客等)が押し寄せるのはNG
- ・高架下に保育園が欲しい
- ・路地や古い建物などを残す(墨田区は古いものを壊してしまう。)
- ・高架下の店舗はチェーン店が殺風景にならぶのはNG。墨田区内の職人などが出店できると良い。
- ・にぎやかにするならスカイツリー側(南側)で、北側は住宅地なので静かな環境を守りたい。

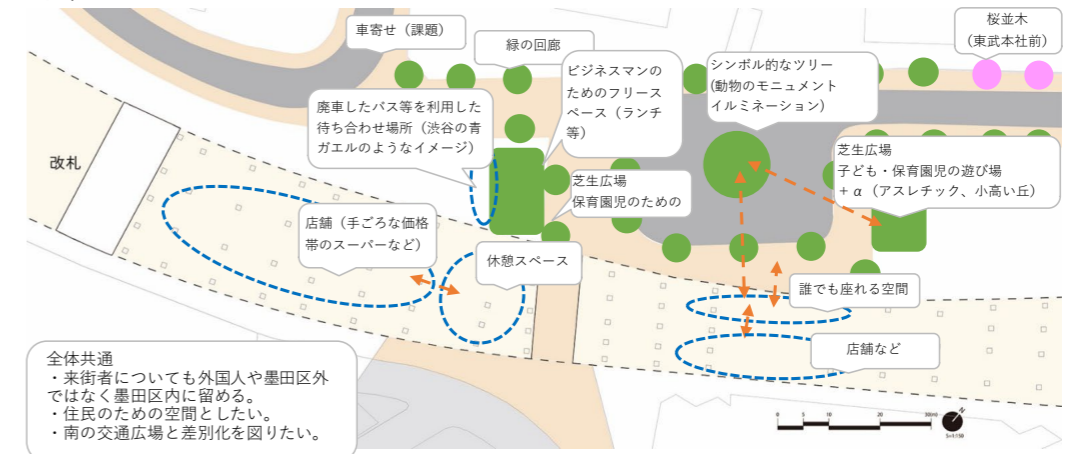
グループ

4

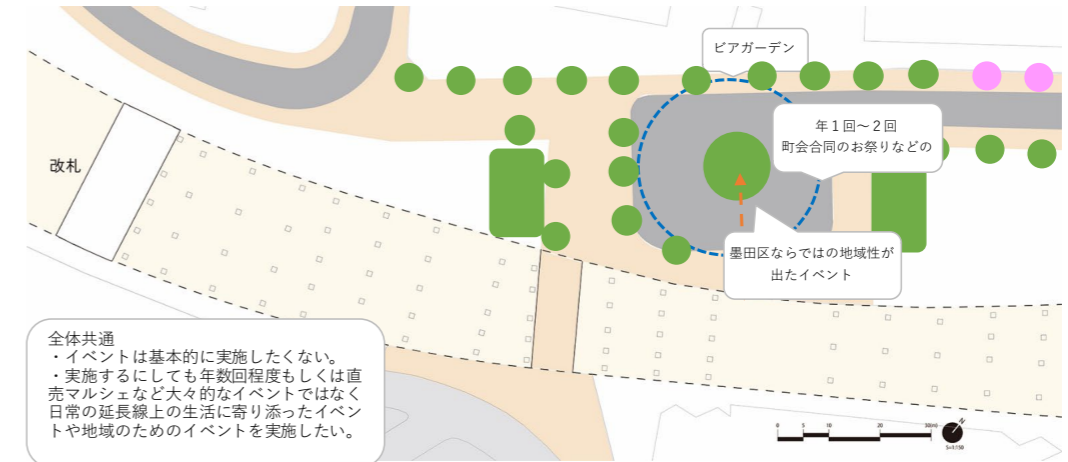
広場名: すみだみどりの広場

	平日の風景	イベント時の風景
誰が?	地域の方々・地域で働く方々が	地域の方々が
いつ?	いつも	シーズン毎に(年一回くらい)
何をしています?	思い思いに過ごしている。 ・緑の多い過ごしやすい場 ・地域の人うれしいコトがある。 (直売マルシェ、子どもが遊べる場)	地域のお祭りなどをおこなっている。 ・地域のためのイベントを 地域の方々がおこなっている。

駅まへの使い方・過ごし方
<日常>



<イベント活用>



その他意見:

- ・来街者についても外国人や墨田区外ではなく墨田区内に留める。
- ・住民のための空間としたい。
- ・南の交通広場と差別化を図りたい。
- ・イベントは基本的に実施したくない。
- ・実施するにしても年数回程度もしくは直売マルシェなど大々的なイベントではなく日常の延長線上の生活に寄り添ったイベントや地域のためのイベントを実施したい。

第2回ワークショップ | グループワーク「“駅まえ”の使い方、広場のコンセプトを考えよう」

グループ

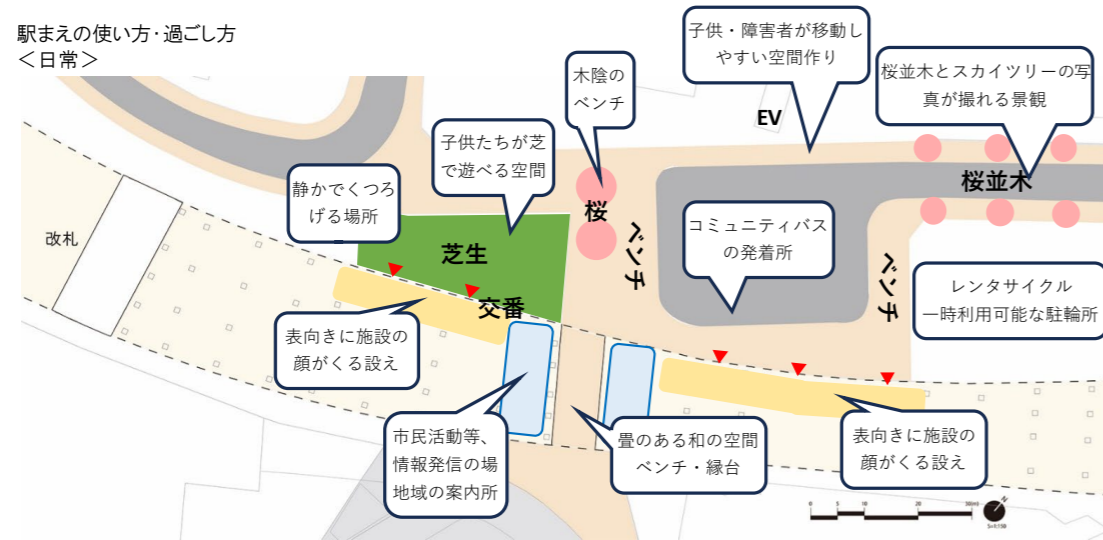
5

広場名:

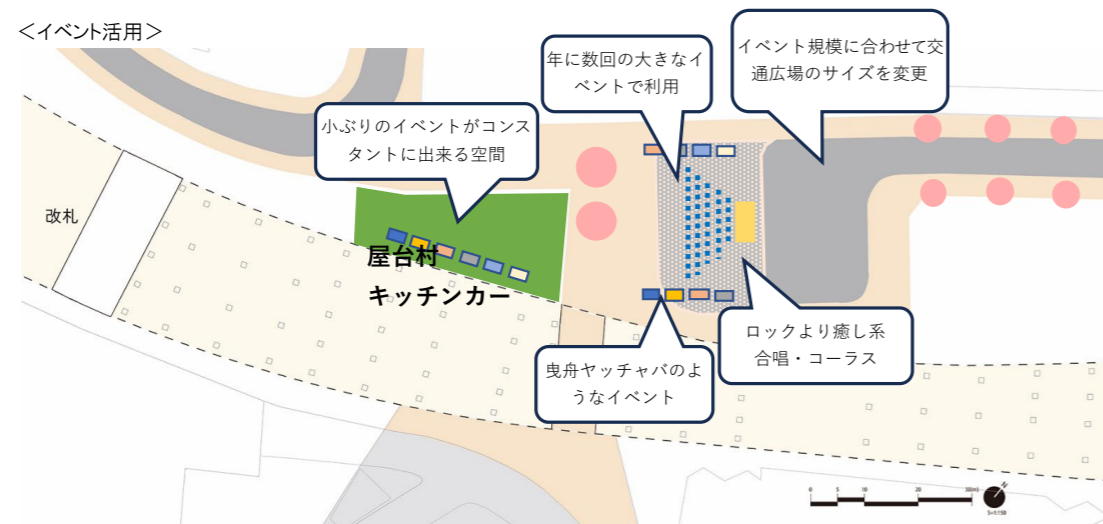
みんなのつくる場

平日の風景	イベント時の風景
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の案内所 ・市民活動「みんなが参加できる」 ・休憩・ひとやすみできる場(ベンチなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント・ステージ ・静かな、くつろげる、芝生のある場 (くつろぐ、癒し、憩い)

駅まへの使い方・過ごし方
<日常>



<イベント活用>



その他意見： 墨田区内の他の地域では、イベントなどをやりたい人が気づいたらやっていることが多いので、参加できるプラットフォームのようなものをつくってあげて、当事者意識を持って関わるとよいのではないかと。(＝当事者意識が生まれる場)

資料編：各ワークショップにおける検討の概要

第3回ワークショップ | グループワーク「はじめの一步を考えよう」

グループ	活動アイデア	補足・備考
場づくり		
2	将棋盤を設置する	使わなくなった将棋盤を持ってきてもらう ⇒おじいちゃんから将棋を習う
2	畳を設置する(人工芝の代わりに)	使わなくなった畳、畳屋の畳を持ってきてもらう(畳を使った家が少なくないか) ⇒寝転ぶことができる
2	使っていないイス・机を借りて設置する	学校には使っていないイス・机が多い ⇒DIYして再利用
5	可動式のイスやテーブルのあるオープンスペース	常設ではないベンチやプランターなら取り組みやすい
5	可動式のイスやテーブルのあるオープンスペース	ビールケースを裏返せばベンチになる(地元アサヒビールに協力)
5	可動式のイスやテーブルのあるオープンスペース	地元町工場に協力してもらい廃材でベンチやプランターが作れるかも
5	可動式のイスやテーブルのあるオープンスペース	ベンチだけではなく暑さをしのぐ日影を作れば更に利用されるとおもう
5	可動式のイスやテーブルのあるオープンスペース	利用者の年齢や利用時間等調査して今後の活動に活かす
イベント活用		
2	パレットを設置し、発表ステージを整備する	区内にパレットを大量に保有している民間企業がある(岡部株) ⇒地域貢献として借りる
2	大きな音を出せる空間を整備する	大きな音を出せる空間が限られているので、音を出せる場があると良いのではないか
2	見てくれる人がいる発表の場を整備する	駅前には通行人が多いので、見てくれる人が多いのではないか
3	大学との連携で学生の発表の場としてみたり子供の遊び場を仮設で作ってみたりする	
4	人目の多い駅まえですみだの伝統文化に触れられるイベント開催や屋台を出店	地元住民が中心に手軽に持ち運べる屋台(マイクロ屋台)を自身で作成し、それを駅まえに設置し、すみだの伝統文化等を発信 大規模イベントは住民が参加しづらいが、自身で作成可能で持ち運び便利マイクロ屋台はイベント参加へのハードルを下げることができ、住民の活動が活発になると推測される。 また、屋台は様々なコンテンツとの相性が良いため、より多くの交流を生み、検討地区の良さを知ってもらう循環を生みだすと考えられる。 休日等に地元住民が駅まえにフリマを開き、子どもが着なくなった服等を出店する
4	着れなくなった子供服等を品として小規模フリマを開催	駅周辺は保育園が数多くある環境であるため、役目をおえた子供服などを出品するフリマを開催することで、子育て層の交流が生まれて、また、世代間の交流も生まれると考える。
5	防災訓練(かまどベンチ・マンホールトイレ等の活用)	防災ベンチがあるのは知っているが、どこにあるのか知らない。地域の公園で防災ベンチを使ったイベントがあれば人が集まるのではないか
みどり		
2	駅前にプランターを置いてみんなで管理する	最初の一步は区の花と緑のサポーターの支援ありから(地区の縄張り意識が強いので) ⇒地域の子どもを巻き込む(学童・散歩中に管理)
2	プランターで野菜を育てて、収穫体験を行う	収穫体験は楽しい、その場で食べるとなおおい (東向島駅前のプランターで寺島ナスを、地元有志と地元小学校などが協力して栽培している。)
2	花と緑のサポーターと協力して管理する	区のボランティア制度「花と緑のサポーター」と協働して取り組む
4	駅前にプランターを置いてみんなで管理	地元住民が駅まえにプランターを設置して、管理(種やプランターはエリマネ団体が行政が支給)
5	子どもの野外活動(花植え、野菜、果実の収穫)芝生や植栽等の管理	元々この地域では軒先にプランターを置き、ガーデニングを楽しむ文化が根付いていて、それを通してコミュニケーションが生まれていた。(基盤整備とともに衰退) 再びその文化を駅まえに置くことで、地域で草花を管理していく過程を通じて、地域交流が生まれ、住民の手でまちに緑が増えていくと考える。
5	子どもの野外活動(花植え、野菜、果実の収穫)芝生や植栽等の管理	保育園に協力してもらい、プランターの管理をしてもらってはどうか 八広のレンタル花屋で使わなくなったプランターを配ってることがあったので、お願いすれば貰えるかも

グループ	活動アイデア	補足・備考
社会実験		
3	高架下を区切ってチャレンジショップやアンテナショップを展開	高架下のスペースで小さく始めてみて空き家等にステップアップして展開していく 向島等少し離れたところにあるお店や工場のアンテナショップを出して、本店まで来てもらう
3	区が補助金を出すなど支援する	
地域資源の顕在化		
3	駅前を通りがかりに回答できるような住民アンケートを実施	いろんなアクションを始める前に地域の声を聞くところから始める
3	向島の認知度やこのまちに何が必要かを聞く	
3	地元事業者に出店意向のアンケートを実施	
3	お薦めのお店や歴史資源などをシールで貼ってもらおう	マップは数日～数週間貼っておき、その場に滞留できる場も作る
3	子どもマップや若者マップも作る	合わせて今回のWS成果の発信も行う
情報発信・情報交換		
3	工事の仮囲いを使って1のアンケート結果やWS結果の広報・PRを行う	
5	市民活動等の情報発信の場、地域の案内所	市民活動の掲示板なら、今すぐ作れるのではないか
5	事例を学ぶ	曳舟でやっている「すみだ青空市ヤッチャバ」の運営方法を勉強する
5	市民活動等の情報発信の場、地域の案内所	東武鉄道にデジタルサイネージを作ってもらい情報発信の協力をしてもらいたい
5		地元で使える空間あるということをロコミで広めていく
人的ネットワークづくり		
2	ボランティア団体の統括組織の協力を得る	墨田区にはボランティアを統括する組織があり、豊富なノウハウを保有している ⇒協働する
2	ノウハウを持っている人はいる	パレットを保有する民間企業や区内で活動する多数のボランティア団体などノウハウを持っているは多い
3	アンケート結果や歴史などをクイズ形式で出してみる	議員にも関心を持ってもらうことで実際の事業やイベントを進める際の推進力をアップ
3	若者中心に活動する	
3	区内の空き家に学生を誘致する	→区内の空き家に移住→区の税収アップにつなげる
3	面白い人を見つけたり参加者を募ったりして関わる人、プレーヤーを増やしていく	
その他		
2	ひとりひとりが「ありがとう」と言われる存在に	さまざまな人が参加できる環境づくりを
2	ルールは緩やかに	規制が多いと参加が難しくなるので、ルールは緩やかな方がいい
2	地元は活動を受け入れ・見守る	地元の人は活動を受け入れ・見守ってくれる人が多い
5		商店街を絡めたいが、この辺りに商店街が無い
5		ロータリーを封鎖する手続きはハードルが高そうだ